



2026 年 8 月 6 日

各 位

会 社 名	株式会社フルヤ金属
代表者名	代表取締役社長 古 屋 堯 民 (コード番号：7826)
問 合 せ 先	取締役管理本部長 西 村 勉
電 話	03-5977-3377

中期経営計画の見直しに関するお知らせ

当社は、2025 年 8 月 7 日に公表いたしました「中期経営計画 KFK ビジョン 2030」に関しましてこれまでの進捗や作成時に前提とした事業環境の変化を踏まえて中期経営計画の見直しを行うことを決議いたしましたので、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 中期経営計画見直しの背景

当社グループは、2025 年 8 月 7 日に 2030 年 6 月期を最終年度とする中期経営計画を公表し、各戦略目標達成に向けて取り組んでまいりました結果、2026 年 6 月期の経常利益が当初設定した中期経営計画の最終年度目標をすでに達成し、過去最高業績を更新いたしました。この乖離は、計画策定時に想定していた事業環境が大きく変化したことによるものです。具体的には当社グループの主要取引先であります通信業界、半導体業界、エレクトロニクス業界などにおいて A I の浸透に伴う設備投資需要などが高まっており、これまでにない事業環境の変化が生じております。加えて、貴金属市況の高騰や為替相場の円安の進行が重なり計画策定時の前提状況も変化しております。今後の事業環境につきましては、引き続き当社グループの主要取引先において設備投資需要が堅調に推移するものと見込んでおります。こうした状況を踏まえて、改めまして事業環境等を捉えて数値目標の見直しと再設定に取り組んでまいります。

なお中期経営計画の戦略方針には変化はなく、引き続き、積極的な事業展開により持続的な成長と企業価値向上に努めてまいります。また、株主の皆様に対しての配当方針にも変更はございません。

2. 今後について

新たな中期経営計画の数値目標につきましては、当社を取り巻く事業環境等を総合的に勘案し、改めて合理的に策定ができるようになった時点で速やかに公表いたします。

3. 添付資料

- ・ KFK ビジョン 2030 進捗

以 上

KFKビジョン2030進捗

2026年8月6日
株式会社フルヤ金属
(プライム7826)

1. 2026年6月期実績
2. KFKビジョン2030進捗
 - 成長分野への取り組み
 - 重要課題の進捗状況
3. 投資計画・財務諸表

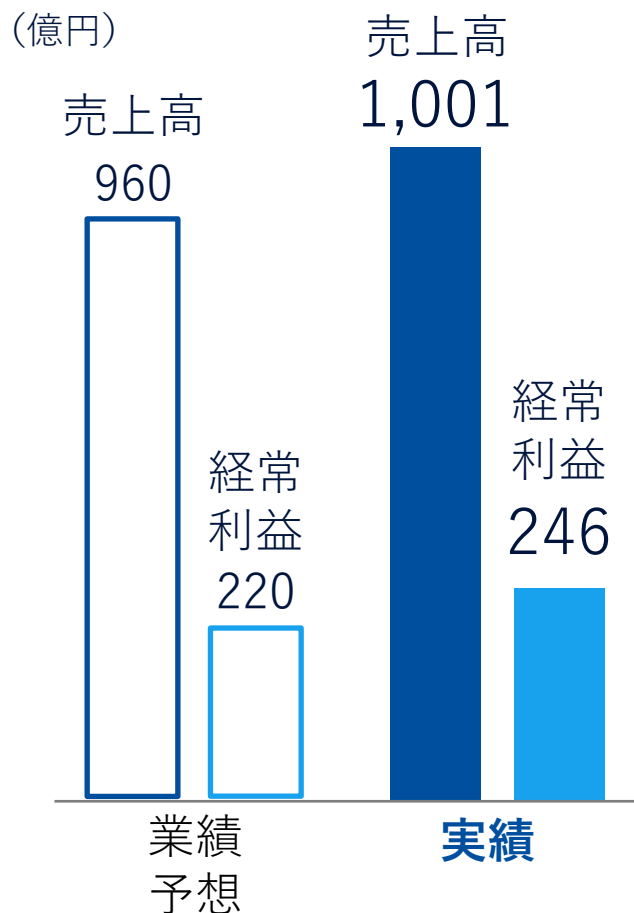
1. 2026年6月期実績

2026年6月期実績

2026年6月期実績

*連結

半導体・データセンター市場を中心とした需要増加
貴金属市況・円安から過去最高の売上高・経常利益を達成

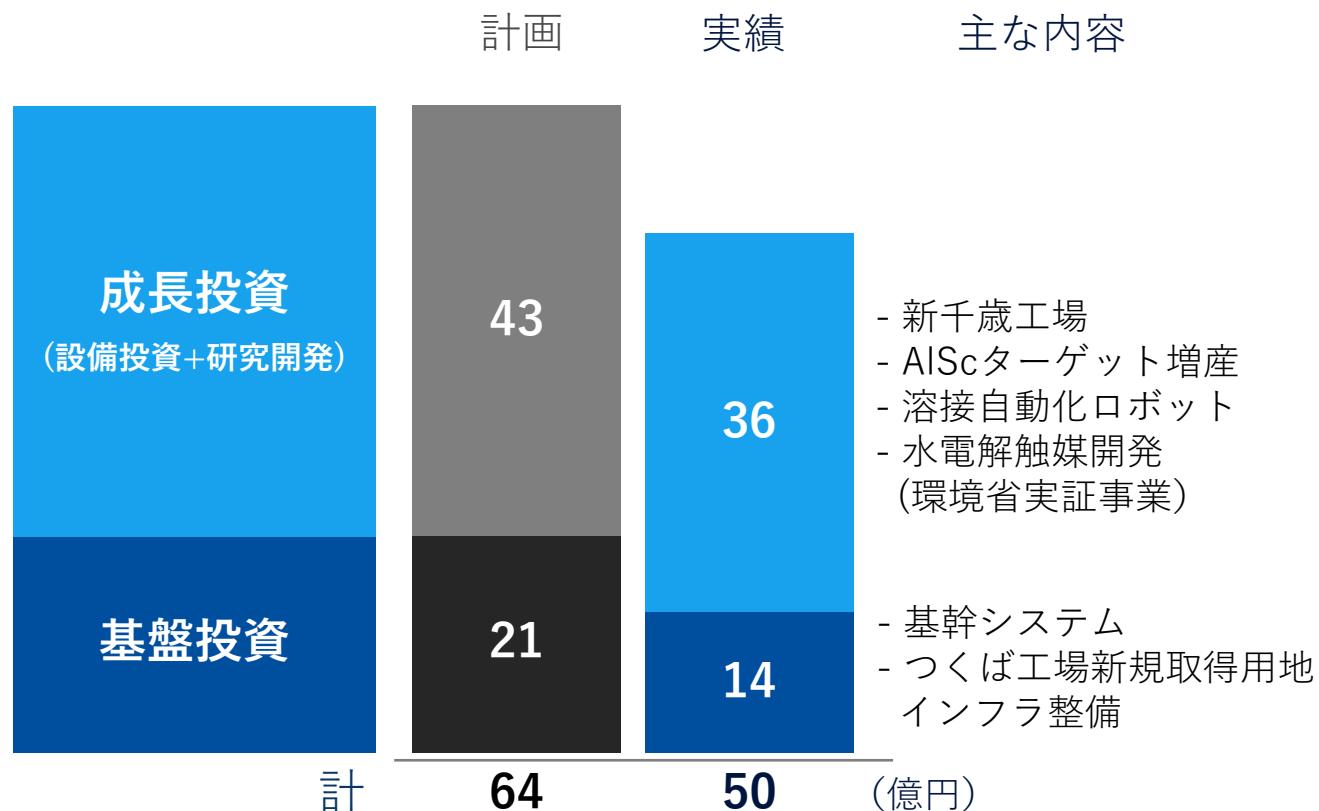


ROE 22.4%

ROIC 17.3%

設備投資・研究開発

成長投資は新千歳工場を中心に概ね計画通りに進捗
基盤投資は工場稼働状況を踏まえ投資計画を一部見直し



※設備投資額はキャッシュアウトベース

2. KFKビジョン2030進捗

KFKビジョン2030と基本戦略（再掲）

「独自技術で高付加価値を創出」

「不確実な時代を乗り越え未来を切り拓く」

戦略的な貢献領域



基本戦略

稼ぐ力の強化

- ・ 不確実な環境でも確実に基礎収益を稼ぎ出す
- ・ “創って、造って、売る”を高速回転

新たな柱の創出

- ・ 5本柱(電子・薄膜・サーマル・ケミカル・回収)の強化
- ・ 更なる成長分野の追求と新たな柱の構築

持続可能な成長基盤づくり

- ・ 持続可能性と高い適応力を備えた組織づくり
- ・ 重要課題への取り組み

KFKビジョン2030の目指す姿 進捗

KFKビジョン2030の目指す姿

2025年6月期実績

売上高	573億円
経常利益	93億円
ROE	10.3%
ROIC	7.4%

利益目標達成
2026年6月期実績

売上高	1,001億円
経常利益	246億円
ROE	22.4%
ROIC	17.3%

KFKビジョン2030

目指す姿は変わらないものの、
2030年目標数値を見直します※1

<計画当初の目標数値 見直>

売上高	1,500億円
経常利益	200億円

半導体・データセンター市場を中心とした需要への対応により過去最高の業績を達成し
中期計画の利益目標も前倒しで達成
“非連続な飛躍”実現に向けた成長分野への種まきを並行して実行

※1 開示が可能になった時点で速やかに開示いたします

2030年 成長分野への取り組み・新たな事業機会と飛躍 (再掲)

コア技術・新技術を活かし

今までの枠にとらわれず新規成長分野への積極的な進出を図る

新たな事業機会を捉え非連続な飛躍に繋げるための
連携とシナジー

KFKビジョン2030

成長領域



新たな柱の創出 – 新たな事業機会

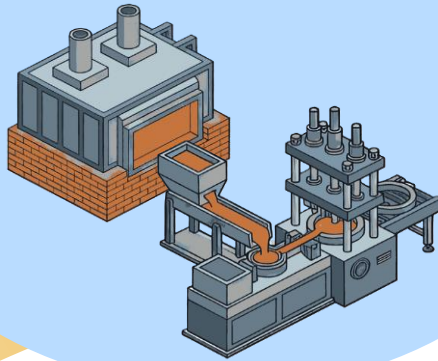


5本柱の強化 – “創って、造って、売る” 高速回転

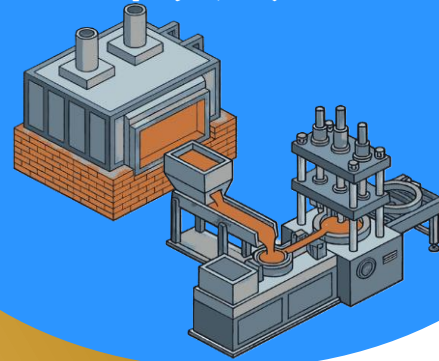
成長分野への取り組み：電子・半導体用ガラス製造技術

電子・半導体分野の高付加価値ガラス市場向けにガラス製造技術を開発
イリジウムを用いた独自の超高温・高速ガラス溶解システムの
開発による差別化

ガラス製造技術



ガラス製造技術＋
イリジウム



ガラス製造用製品



半導体



データセンター



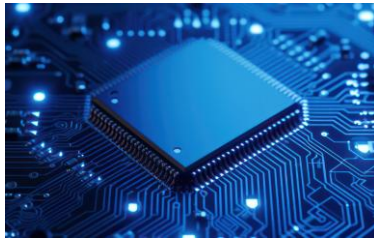
スマートフォン



成長分野への取り組み：半導体用スパッタリングターゲット

最先端半導体に不可欠な高品質ルテニウムターゲットの全世界的供給

最先端半導体

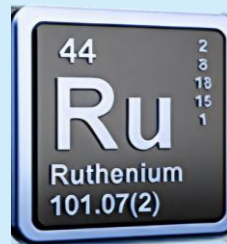


EUV露光

マスクブランク材料

配線低抵抗化

ルテニウム配線



更なる生産・開発体制の拡充

主要装置・デバイスメーカーとの
緊密な開発推進

EUVマスクブランクス
+Ru配線開発需要

EUVマスクブランクス
+Ru配線量産需要

2030年頃

成長分野への取り組み：粉末スパッタリング技術

粉末スパッタリングの量産技術の確立 先端分野の新規素材開発に貢献



半導体材料



チップコンデンサ



次世代電池



高機能磁石



均一・高品質なナノレベル薄膜により新機能を付与



- ✓ 熱特性
- ✓ 電気特性
- ✓ 光学特性
- ✓ 触媒担持

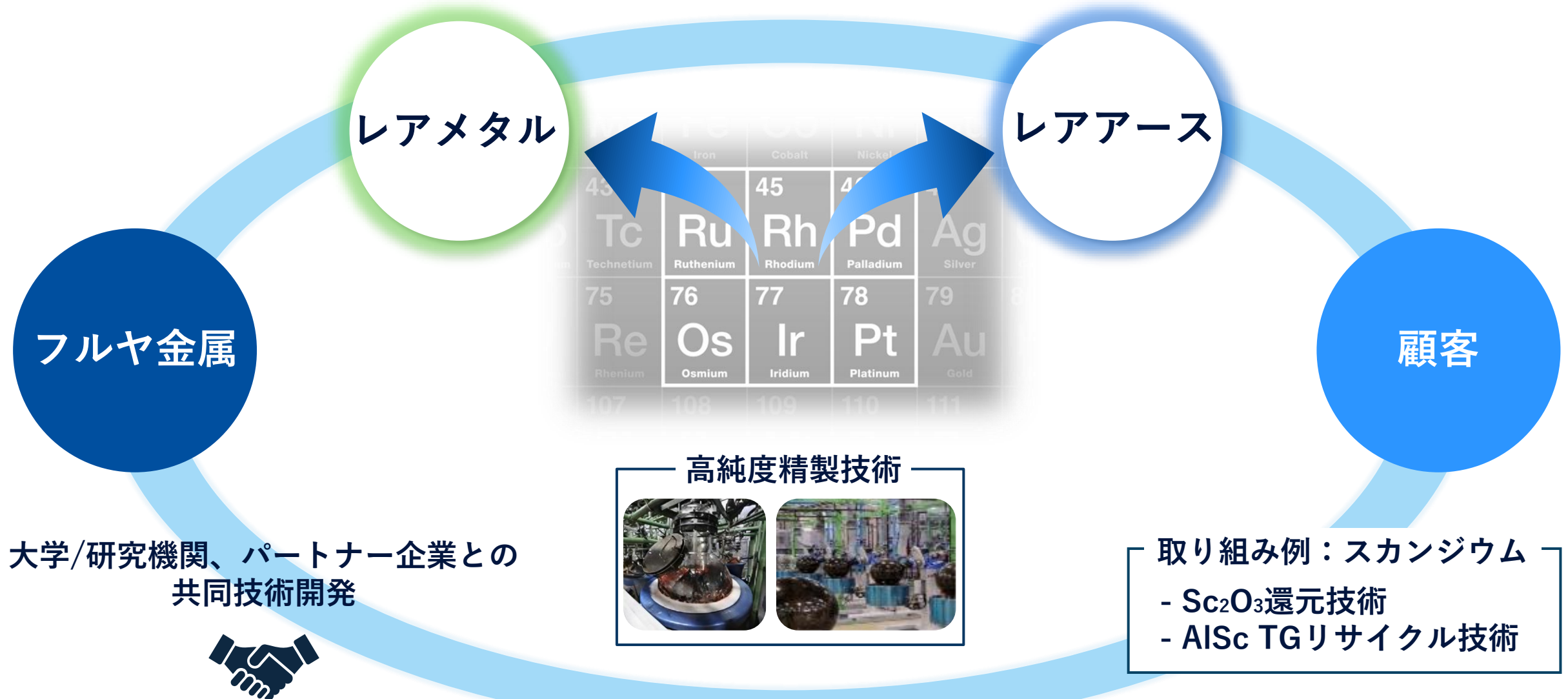
成長分野への取り組み：石英製品・熱電対供給体制

2027年 新千歳工場の本格稼働により半導体向け新規石英製品の事業化
熱電対製品のグローバル供給体制の強化を検討



成長分野への取り組み：希少元素の資源循環技術開発

イリジウム・ルテニウムの高純度精製技術を核に、他希少元素の資源循環技術を開発



重要課題目標設定と2026年6月期実績

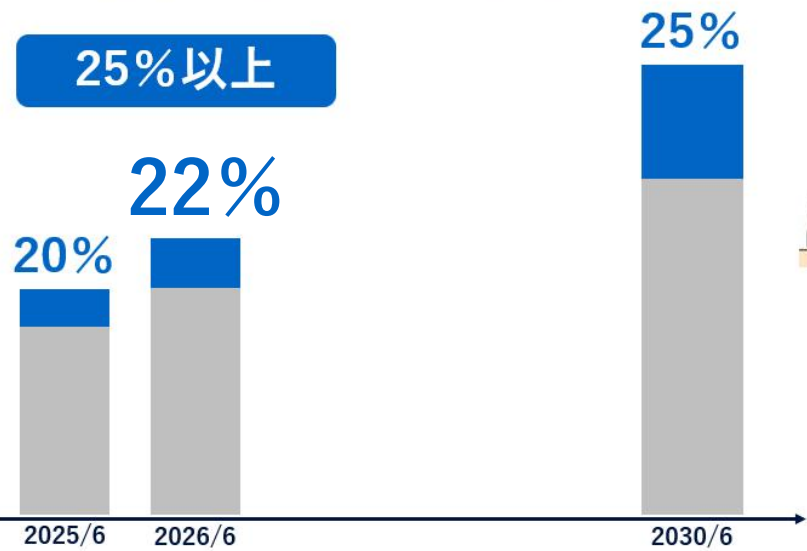
価値組合せ	重要課題	目標・指標（2030年6月期） （）内は2025年6月期実績	2026年6月期実績
経済価値 × 社会価値	【1. 新規事業の創出】 イリジウム・ルテニウムで培ったグローバルニッチトップ独自技術の“更なる進化”で高付加価値ビジネスを創出	新技術・製品のものづくり売上比率： 25% 以上（20%）	22%
	【2. 職場環境の整備】 人権を遵守し、多様な人財が働き甲斐を感じる安全・安心な職場環境を構築	(1) 死亡災害・休業災害件数： 0 件（0件） (2) エンゲージメント・ストレスチェック調査の実施（ 1 回/年）と調査結果を踏まえた改善活動の 継続 （1回/年） (3) 女性管理職比率： 20% 以上（2.3%） (4) 男性育休取得率： 100% （80%）	(1) 1件（休業） (2) 調査実施→経営層にフィードバック (3) 7.1% (4) 82%
	【3. 人財育成の強化】 グローバル課題の発掘・解決に挑み続ける人財を育成	(1) 重要スキル・資格の特定と習得推進体制を構築し、社員の 50% が対象スキル・資格の 1 つ以上を取得 (2) 選抜社員対象の重点外部研修プログラム（公募型）を設立し、設立プログラム毎に 1 名以上の人財派遣を実施	(1) 社員スキルの見える化実施 (2) 2名（MOT）
経済価値 × 環境価値	【4. 環境保全の推進】 4-1 省エネ・クリーンなものづくり 4-2 カーボンニュートラルに貢献する新製品	(1) CO ₂ 排出量(SCOPE1、2)の低減率：2023年度比 80% (2) SCOPE3領域のCO ₂ 排出量を 算定 し、低減目標を 設定 (3) 当社製品のカーボンニュートラルへの貢献度を 指標化	(1) 80%削減達成 (2) Scope3上流算定実施 (3) 一部製品指標化開始
	【5. 業務効率化の徹底】 DX化の推進で徹底的な業務効率化を追求	(1) 経済産業省が定めるDX成熟度：レベル 3 （レベル1） (2) 業務のペーパーレス化： 100% （10%） (3) 製造工程のロボット化率： 1,000 台/万人（523台/万人）	(1) レベル1 (2) 10% (3) 622台/万人

重要課題 1 新規事業の創出

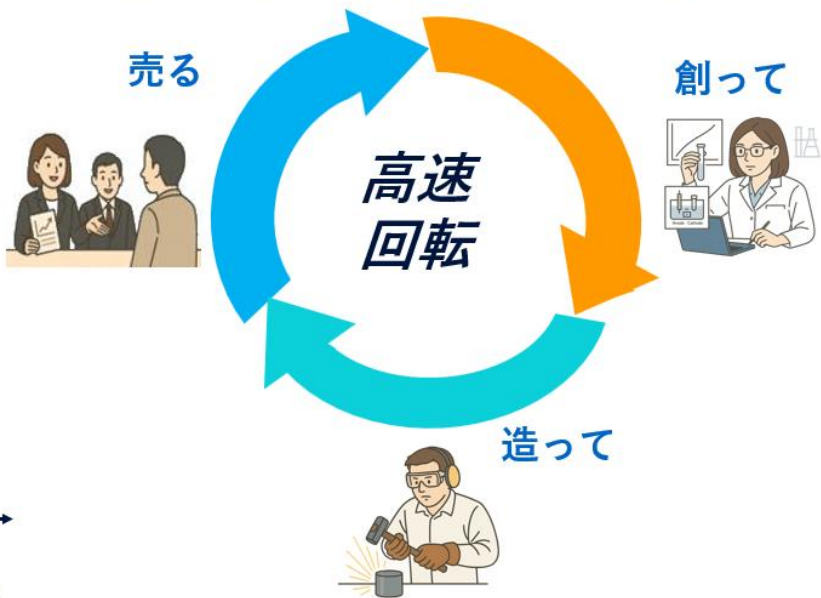
イリジウム・ルテニウムで培ったグローバルニッチトップ独自技術の
“更なる進化”で高付加価値ビジネスを創出

新技術・製品のものづくり売上比率の向上

“創って、造って、売る”のサイクルを高速化



※新技術・製品の定義：開発が終了し、上市してから5年以内の技術および製品



目標	2025/6 実績	2026/6 実績	2030 目標
新技術・新製品 売上比率	20%	22%	25%

2026/6期取り組み

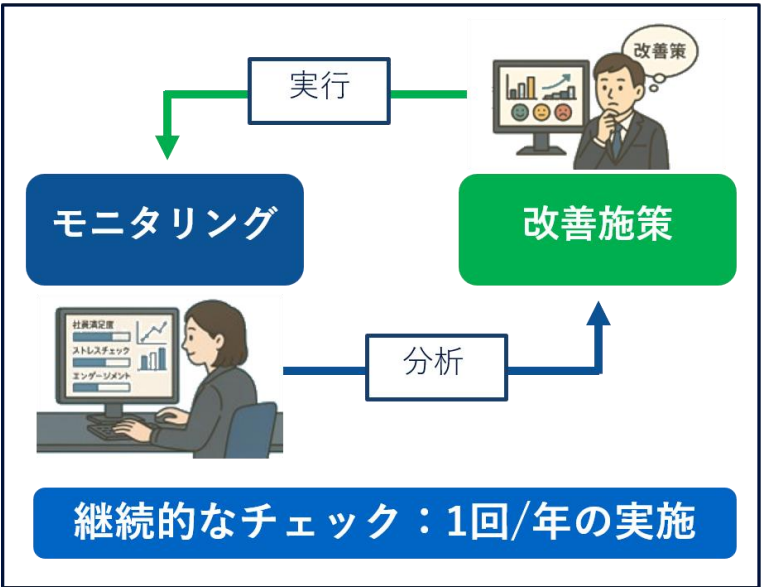
単結晶育成用Ir合金ルツボ、通信デバイス向けAlScターゲットなどの販売が伸長し、新製品売上比率は過去最高を達成

重要課題 2 職場環境の整備

人権を遵守し、多様な人材が働きがいを感じる安全・安心な職場環境を構築

死亡・休業災害0日の継続

モニタリング⇔改善サイクルでエンゲージメントを向上



0 件

2026/6期実績 1件

女性管理職比率の向上

男性育休取得率の向上



20%以上

2026/6期実績 7.1%



100%

2026/6期実績 82%

目標	2025/6 実績	2026/6 実績	2030 目標
死亡災害・ 休業災害件数	0件	1件 (休業)	0件
女性管理職比率	2.3%	7.1%	20%
男性育休取得率	80%	82%	100%

2026/6期取り組み

- 社員を対象にストレスチェックを実施
- 外部機関の専門家を招き、経営層に対して組織の強みと留意点をフィードバックし、職場環境の改善活動に着手

重要課題 3 人財育成の強化

求める人財像

無限の可能性に先見力と創造力に対応



会社が推奨する、もしくは社員が望むスキルの向上について、会社が積極的に支援

新たな教育プログラムの設置で人財力を強化

(1) 全社員対象の基盤教育プログラムの設定と実行

- ① 重要スキル・資格の特定と習得推進体制を構築
- ② 社員の50%が対象スキル・資格の1つ以上を取得

<対象資格(例)>

技術（技術士、電気主任技術者、エネルギー管理士、危険物取扱者、機械設計技術者）、IT（MOS、ITパスポート、基本/応用技術者試験、プログラミング）、語学（英検、TOEIC、各国語検定）、会計（簿記）

(2) 選抜社員対象の重点教育プログラムの設立と実行

- ① 特別外部研修制度の設立（省庁、大学等外部での業務）
- ② 設立プログラム毎に1名以上の人財派遣を実施

<対象プログラム(例)>

ビジネススクール(MBA、MOT)、省庁、大学・研究機関、企業等への出向

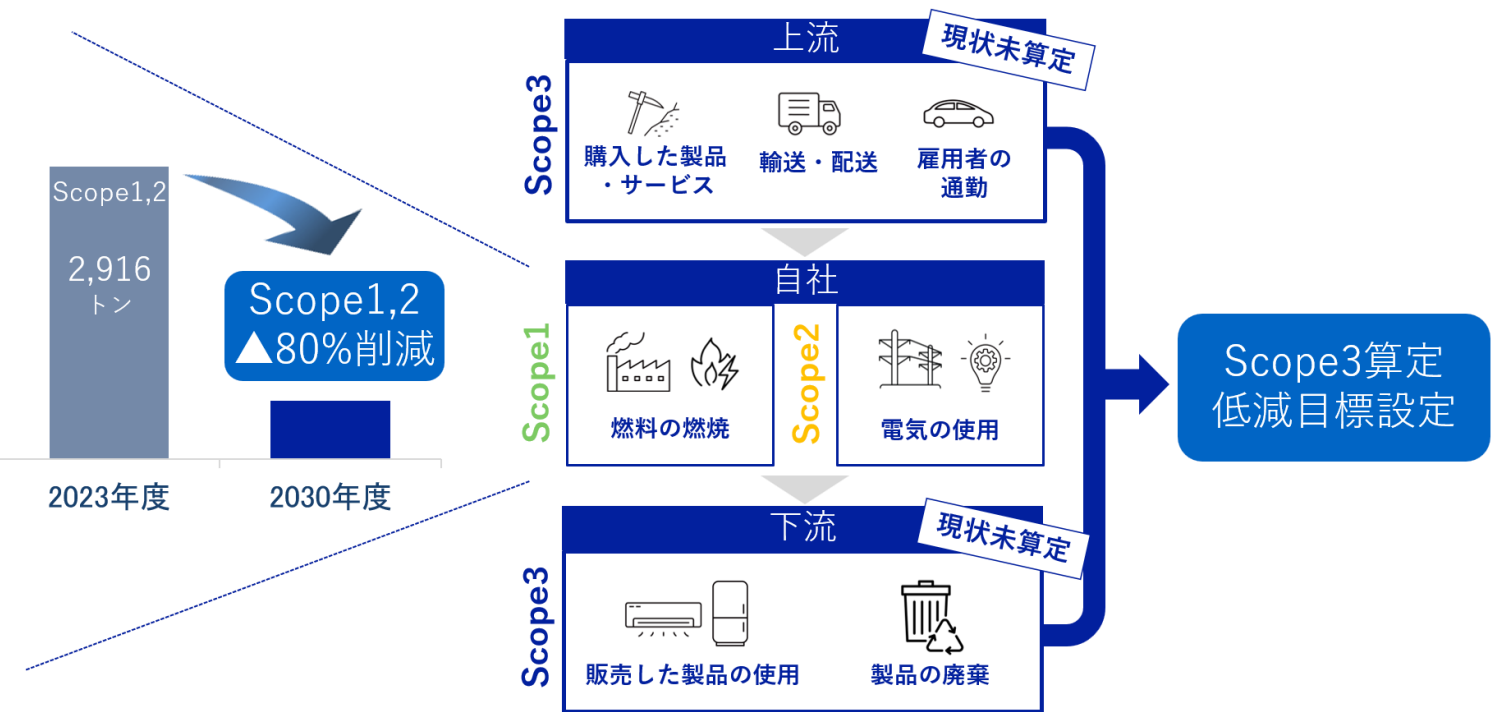
目標	2025/6 実績	2026/6 実績	2030 目標
対象スキル・ 資格取得者比率	-	-	50%
重点教育プログラムの派遣	-	2名	1名以上

2026/6期取り組み

- ・ 社員の保有資格やスキルを一元管理・可視化するデータベースシステムの運用を開始
- ・ 重点教育プログラムの一環として、社員2名が熊本大学のMOTビジネススクールを修了

重要課題 4-1 環境保全の推進：省エネ・クリーンなものづくり

省エネ・クリーンなものづくりを通じてカーボンニュートラルに貢献



目標	2024年度実績	2025年度実績	2030目標
Scope1,2 CO ₂ 排出量削減 (2023年度比)	△80%	△80%	△80%
Scope3算定・低減目標設定	-	算定開始	算定・目標設定

2026/6期取り組み

- Scope1, 2 2025年度80%削減達成。Scope3一部カテゴリを算定し、排出量の大きい品目を特定
- サステナビリティプロジェクトが発足。全社横断で環境対応に取り組む体制を整備

重要課題 4 - 2 環境保全の推進：カーボンニュートラルに貢献する新製品

環境保全に寄与する次世代技術・製品を実用化し、カーボンニュートラルに貢献



目標	2025/6 実績	2026/6 実績	2030 目標
当社製品のCO ₂ 削減貢献度 指標化	-	算出 開始	指標化

2026/6期取り組み

- 当社の主力製品のライフサイクルを整理し、一部製品のCO₂削減貢献度を試算開始

重要課題 5 業務効率化の徹底

DX化の推進で徹底的な業務効率化を追求

国が定める認定取得でDX化を推進

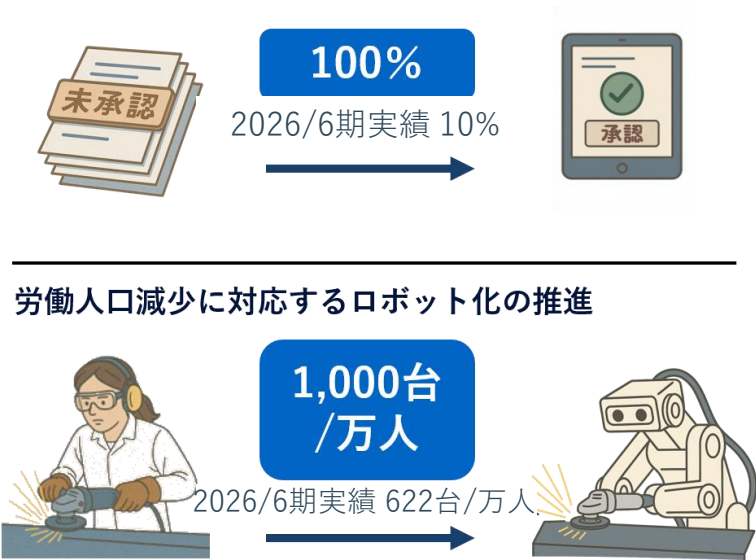
レベル	状態
5	市場を先導するデジタル企業
4	全社戦略に基づく持続的実施
3	全社戦略に基づく部門横断の推進
2	一部での戦略的な実施
1	一部での散発的な実施
0	未着手

レベル 3

2030年

2024年

IT技術の徹底活用によるペーパーレス化の推進



目標	2025/6 実績	2026/6 実績	2030 目標
DXレベル	レベル1	レベル1	レベル3
業務 ペーパーレス化	10%	10%	100%
製造工程 ロボット化	523台 /万人	622台 /万人	1,000台 /万人

2026/6期取り組み

- ペーパーレス化率は基幹システムの導入遅延により前期から横ばい。その間、図面や工程情報のデジタル化を積極的に推進
- 加工・溶接ロボットの導入を拡大し、ロボット化は前期実績から6.5%向上

3. 投資計画・財務指標

成長投資計画

コア技術の進化・新技術の獲得に向けた戦略投資
デジタル・グリーン分野の成長市場で新たな柱を創出

KFKビジョン2030に向けて
300億円規模の成長投資を実施する方針

新たな柱の創出 – 新たな事業機会

5本柱の強化 – “創って、造って、売る” 高速回転

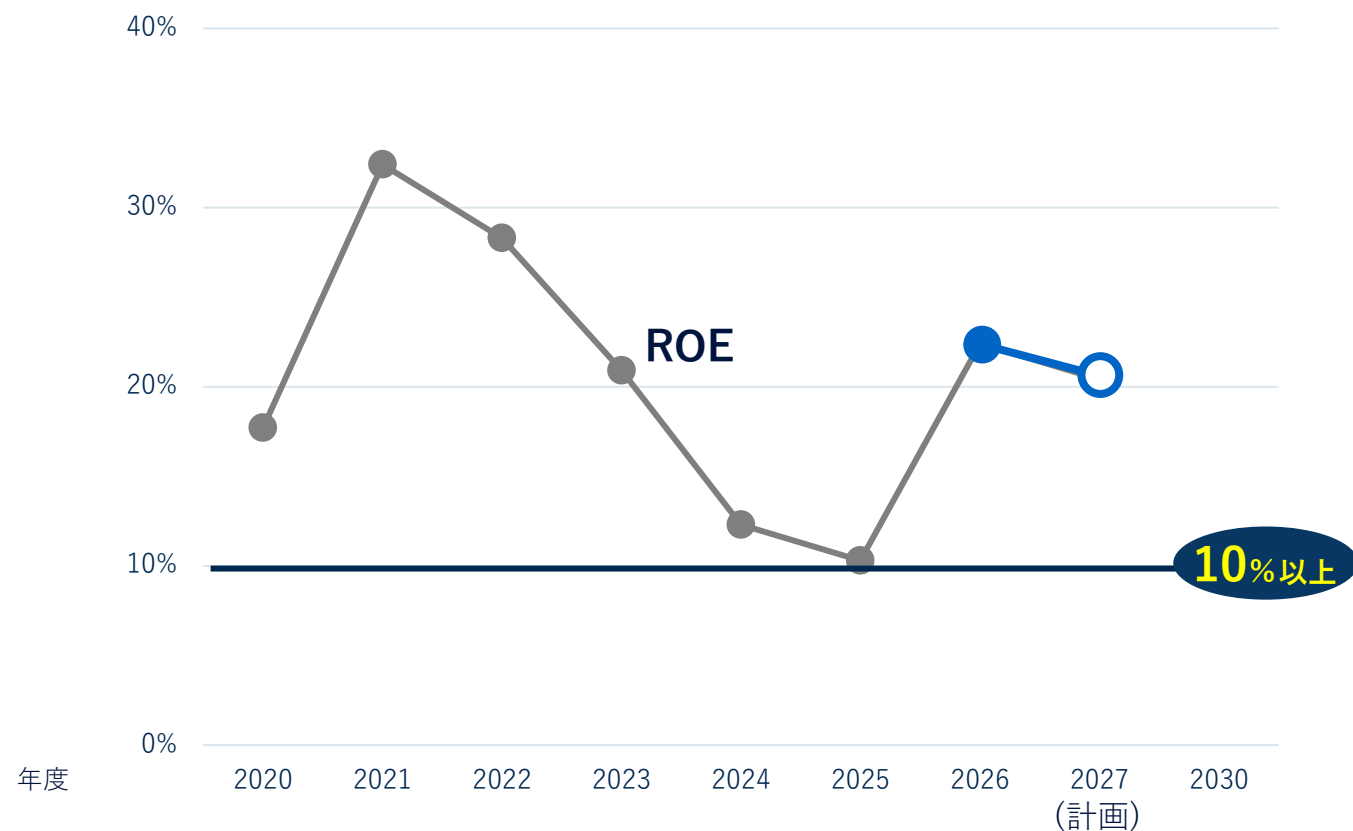
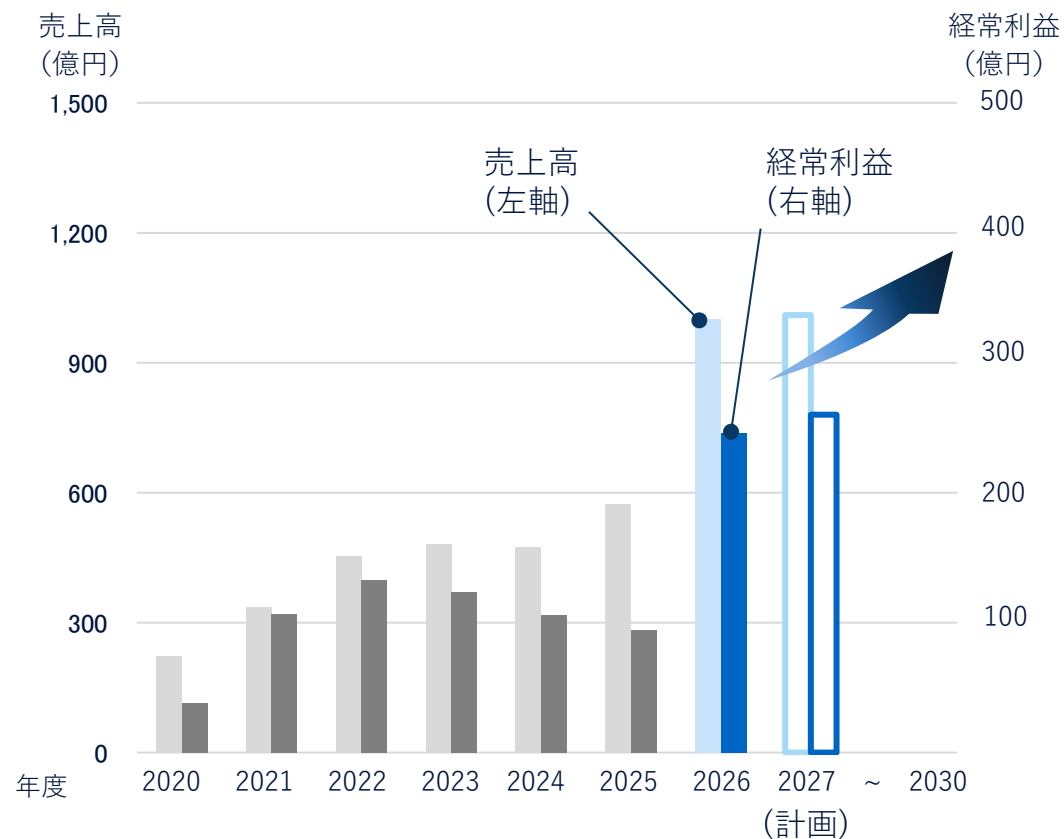


KFKビジョン2030 で目指す経営(財務指標)

目指す姿は変わらないものの、2030年目標数値（売上高、経常利益、ROE、ROIC）を見直します※1

高付加価値事業の創出により継続的な成長を目指します

創出付加価値からの安定配当を目指します※2



※1 開示が可能になった時点で速やかに開示いたします

※2 配当性向25%以上を基本としたうえで、当期利益を生まなかった場合等においては配当方針の見直しを検討します

企業価値向上に向けた取組み

棚卸資産のリバランスを2026年6月期に実施
新製品の上市、効率化投資によって収益性向上を推進する

